

同和問題啓発強調月間の各校区の取り組み

校区	日時	会場	内容
波多江校区	7月3日(土) 13:30から	波多江公民館 ☎(322)1614	波多江小学校児童人権作文発表と一人芝居 演題 TEARS(涙) 出演 武石 博さん(劇団ひとりぼっち)
東風校区	7月3日(土) 10:00から	東風公民館 ☎(321)1114	九大留学生を迎えてパネルディスカッション まちづくりフォーラム ～一人ひとりが輝くまちづくり～
前原校区	7月17日(土) 10:00から	前原公民館 ☎(322)2481	一人芝居 演題 TEARS(涙) 出演 武石 博さん(劇団ひとりぼっち)
前原南校区	7月3日(土) 13:30から	前原南公民館 ☎(324)1763	講演会 演題 「身のまわりの差別について」 講師 樗木 武洋さん(福岡県講師団講師)
南風校区	7月10日(土) 10:00から 12:00	南風公民館 ☎(322)9656	基調講演とシンポジウム テーマ 子どもの見守り活動は地域づくり 講師 高原 博之さん(前原西中学校長)
加布里校区	7月3日(土) 13:30から	加布里公民館 ☎(322)3026	歌と講演のつどい 歌 コスモスのみなさん、はなびら合唱団のみなさん 講師 高原 博之さん(前原西中学校長)
長糸校区	7月3日(土) 10:45から	長糸公民館 ☎(323)2032	人権コンサート(ワンワンライブ) テーマ 動物との共存、愛することのたいせつさ 講師 染矢 あつ子さん
雷山校区	7月3日(土) 9:30から	雷山公民館 ☎(323)0078	講演会 演題 人権尊重のまちづくり～高齢者の役割～ 講師 安河内 興二さん(福岡県講師団講師)
怡土校区	7月3日(土) 10:00から	怡土公民館 ☎(322)7815	一人芝居 演題 TEARS(涙) 出演 武石 博さん(劇団ひとりぼっち)
一貴山・深江・福吉校区	7月4日(日) 10:00から	深江公民館 ☎(325)0234	講演会 演題 「若者の立場から見える部落差別」 講師 吉岡 綾さん(福岡市人権学習啓発講師)
可也・桜野・引津校区	7月3日(土) 10:00から	健康福祉センターふれあい ☎(327)2941(志摩初)	講演会 演題 「若者の立場から見える部落差別」 講師 吉岡 綾さん(福岡市人権学習啓発講師)

※各校区の取り組みは糸島市人権・同和教育推進協議会各支部の主催です。

# 見つめてみよう暮らしの中の人権

県では、県民一人ひとりが同和問題の解決を自分自身の課題としてとらえ、人権意識の高揚を図ることを目的に、7月を「同和問題啓発強調月間」として、同和問題解決に向けた啓発行事を実施しています。市でも、この期間中は、街頭啓発や講演会などを行います。

**平成22年度講演会**  
〔中央講演会〕  
日時 7月4日(日)14時  
場所 糸島市人権センター  
講師 吉岡 綾さん(福岡市人権学習啓発講師)  
演題 「若者の立場から見える部落差別」



講師の吉岡綾さん

●講演の紹介  
吉岡さんに母親が初めて同和地区について話したのは、吉岡さんが小学4年生の時でした。同和地区外から嫁いだ母親にとって、子育てに於いての最大の試練でした。吉岡さんは、十代の時に職場で受けた差別体験を、今で

も夢に見ると言います。部落差別について何も知らない自分を見つめ直すことから、吉岡さんの解放運動は始まりました。※当日は、手話通訳と要約筆記があります。  
〔福岡県同和問題啓発強調月間講演会〕  
日時 7月24日(土)12時30分(講演と映画)  
場所 クローバープラザ(春日市原町3-1-7)  
講師 川口 泰司さん  
演題 差別っていったいなんやねんくもつとホンキで、主語は「わたし」で  
映画 「おとうと」(監督/山田洋次、出演/吉永小百合、笑福亭鶴瓶ほか)  
問い合わせ (財)福岡県人権啓発情報センター  
☎(584)1271

## 講演会は「気づきの場」

過去の講演会から(前原市中央講演会・志摩町講演会)  
〔講師〕川口 泰司さん

### ボクのおいちゃんの死

「差別は、される側を不幸にしているのではない。する側を不幸にしている。このことを最初に気づかされたのは大学時代の恋愛だった。



### ボクのおいちゃんの死

ボクには大学生の時に付き合っていた彼女がいた。彼女の両親と会い、ボクが部落出身と言ったから、ずっと彼女の身内から交際を反対されていた。中でも一番反対していたのが、彼女のおいちゃんだった。実家に帰省するたびに、ボクと別れたのかと猛反対。そのおじいちゃんが最後に体調を崩し入院した。

いる時、彼女の携帯に、おじいちゃんが死んだという知らせがあった。そのことを聞いた彼女は泣き崩れた。しばらくたって、彼女が顔をあげ、涙を流しながら微笑み、ボクにこう言った。「よかった...これで一人、差別者が減ったね」悲しいという気持ちと同じくらい、自分の中では、よかった、これでややこしく言う人が一人減った...って気持ちがあるんだよ。素直に悲しいって、泣けんのよ」と目に涙をいっぱいためて、そう叫ぶ彼女。

### 自分からの解放

本当の意味で不幸なのは、おじいちゃんだと思う。孫ってかわいくて仕方がない。そのかわいさ孫娘と最後、顔も見られず、けんか別れ。死んだ時に「よかった」と言われたおじいちゃんがある意味、一番不幸に思える。「おじいちゃん、あなたがもう少し正しく学ぶことができたらなら訳の分からない、差別意識、世間体、周囲の目、そんなものにかんじがらめに縛られず生きていったのに、そのかわいさ孫を傷つけずに済んだのに」とボクはおじいちゃんのことを悲しく思えた。

### 差別する側の不幸

ボクはこのときに痛感させられた。部落差別があることで、不幸になっているのはボクじゃない。ボクは彼女の身内から反対され、差別を受けて傷つくことはあった。でもそれは不幸などではない。ボクの身内や仲間はみんな応援してくれていたから。でも、彼女は自分の身内から反対されていた。大好きなおじいちゃんが死